

## 日本オリエント学会第59回大会プログラム

2017年10月28日(土)・29日(日)

会場：東京大学本郷キャンパス法文1・2号館

### 第1日 10月28日(土) 14:00～20:00

公開講演会・学会奨励賞授与式

会場：法文2号館1番大教室

13:30 開場

14:00～14:10 開会挨拶

14:10～17:00 第318回公開講演会「唯一神教における法と伝承」

第1講演：市川裕（東京大学大学院人文社会系研究科・教授）

「ユダヤ教の法と伝承-タルムードはなにを議論しているのか-」

第2講演：柳橋博之（東京大学大学院人文社会系研究科・教授）

「イスラーム法とハディース（預言者伝承）」

17:10～17:40 第39回日本オリエント学会奨励賞授与式

18:00～20:00 懇親会（会場：医学系研究科教育研究棟13階カポ・ペリカーノ）

### 第2日 10月29日(日) 9:30～16:30

研究発表会

会場：法文1号館112、113、212、214、215、216教室（口頭発表）

217、219教室（ポスター発表：コアタイム [12:50～13:20]）

主催 日本オリエント学会

10月29日(日) 研究発表(それぞれの発表は20分、質疑応答は5分をお願いいたします)

**第1部会 112教室**

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	渡辺 和子	『ギルガメシュ叙事詩』(標準版)の主題を再考する
2	10:00-10:25	山田 雅道	<i>qubūru</i> 考: エマルにおける祖先崇拝の様相
3	10:30-10:55	山田 重郎	テル・タバン出土イツイ・スムアビ書簡にみる前18世紀後半のタバトゥム
4	11:05-11:30	高橋 洋成・ 永井 正勝	古代エジプト語とアッカド語におけるTense-Aspect-Moodの対照研究: 対訳資料に出現する動詞形の記述
5	11:35-12:00	細田 あや子	太陽神をめぐる儀礼と神像制作
	12:50-13:20		昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	青島 忠一朗	新アッシリア時代の王碑文における神々と王との関係
7	14:00-14:25	江原 聡子	新バビロニア王ナボニドス時代のシン崇拝
8	14:30-14:55	山本 孟	ヒッタイトの支配領域と境界について
9	15:05-15:30	佐久間 保彦	ヒッタイトの占い文書の概観と分類
10	15:35-16:00	杉江 拓磨	ダニエル書4章のネブカドネツァル王の狂気について
11	16:05-16:30	竹内 茂夫	ダニエル書に現れる「立琴」を表すケティヴ* <i>qitārōs</i> /* <i>qitārōs</i> から ケレ <i>qatrōs</i> への音変化

**第2部会 113教室**

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	西秋 良宏・ オタバク・アリフジャノフ	ウズベキスタン、テシク・タシュ洞窟出土の中期旧石器時代石器群
2	10:00-10:25	前田 修	西アジア先史時代の黒曜石交易
3	10:30-10:55	小高 敬寛・ オリフィア・ニウエンハウゼ・ シモネ・ミュール	イラク・クルディスタン地域、シャフリゾール平原の前6千年前後
4	11:05-11:30	赤司 千恵・ ファルバルト・キエフ・ 丹野 研一・ 西秋 良宏	南コーカサスにおける初期農耕:出土植物データからみた研究の現状
5	11:35-12:00	千本 真生	黒海北西岸域におけるウサトヴォ文化の縄目文土器
	12:50-13:20		昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	小泉 龍人	南メソポタミアの都市遺跡の計画性と現状:川を意識した軸線
7	14:00-14:25	吹田 浩・ アフト <sup>レ</sup> ・シュエイブ・ ア <sup>レ</sup> テル・アカリシュ・ マイサ・マンズール・ 伊藤 淳志・ 中村 吉伸・ 鶴田 浩章・ 安室 喜弘・ サルマン・アル・マハリ	バーレーン王国バルバル神殿の保存のための研究
8	14:30-14:55	安倍 雅史・ 後藤 健・ 西藤 清秀・ 上杉 彰紀・ 堀岡 晴美・ 原田 怜	バハレーン、ワーディー・アッ=サイル考古学プロジェクト第3次調査の報告
9	15:05-15:30	西山 伸一	アッシリア帝国東部における物質文化と地方統治形態: Yasin Tepe Archaeological Projectの成果から
10	15:35-16:00	渡辺 千香子・ J. ヴァ <sup>レ</sup> トニ	ティル・トゥーバの戦い:浮彫りと文献からの考察
11	16:05-16:30	四角 隆二	イラン北部における鉄製利器受容期の様相: バイメタル剣の製作技法の検討から

第3部会

215教室

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	肥後 時尚	古代エジプトの「二道の書」におけるマアト
2	10:00-10:25	中野 智章	エジプト初期王朝時代の王の墓碑について
3	10:30-10:55	矢澤 健・ 吉村 作治	エジプト・ダハシュール北遺跡の第13王朝
4	11:05-11:30	近藤 二郎	ルクソール西岸、アル=コーカ地区出土の葬送用コーンについて
5	11:35-12:00	河合 望	エジプト北サッカラにおける新王国時代の墓地： 2017年の調査を中心に
12:50-13:20			昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	竹野内 恵太	エジプト初期王朝時代の石製容器製作のプロセスと技法選択
7	14:00-14:25	高橋 寿光	古代エジプト、青色彩文土器の製作技術と生産について
8	14:30-14:55	福田 莉紗	ビーズネットの型式学的研究
9	15:05-15:30	田澤 恵子	古代エジプトのウシェブティ製作に関する一考察： Campbell Tomb出土のウシェブティをめぐって
10	15:35-16:00	南澤 武蔵	古代エジプトのファイアンス製リングの製作について： 高校生による復元製作を目指す中で見えてきたこと
11	16:05-16:30	安岡 義文	古代エジプトの家具のデザイン研究：гент・デザイン博物館アーカイブ

第4部会

216教室

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	土居 通正	ミケーネ諸宮殿崩壊期キプロス出土の在地と搬入土器の動物文装飾から： 近年の知見を加えて
2	10:00-10:25	長尾 琢磨	パレスチナ地域におけるロクリ墓の変遷：エルサレムの事例から
3	10:30-10:55	坂本 翼	古代末期スーダンにおけるキリスト教の浸透過程： 物質文化研究の観点から
4	11:05-11:30	原田 怜	ヒストリックカイロにみるエジプトの文化遺産保護制度の課題
5	11:35-12:00	内記 理	ガンダーラ地方仏教寺院遺跡出土浮彫画像帯の組み合わせについて
12:50-13:20			昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	宮下 佐江子	日本に将来されたパルミラ出土漢代絹織物について
7	14:00-14:25	津村 眞輝子	北シリア、ユーフラテス川中流域のローマ・ビザンツ時代の埋葬施設： 出土ランプからみた特徴

企画セッション

テーマ「文化変容の中のアイデンティティ：フェニキアの事例を中心に」（企画代表：江添 誠）

8	14:30-14:55	佐藤 育子	図像表現にみるフェニキアの宗教の発展と変容
9	15:05-15:30	青木 真兵	新ポエニ語碑文からみる西地中海世界の変容
10	15:35-16:00	江添 誠	ティルスとガダラ：トランス・ヨルダン地域におけるフェニキアの表出
11	16:05-16:30		コメント・討論(コメンテーター：小野塚 拓造)

第5部会

214教室

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	立町 健悟	初期ユダヤペルシア語の法体系について
2	10:00-10:25	バグマトフ・アリジェル	ムグ文書に見られる諸問題
3	10:30-10:55	水上 遼	12-14世紀における「イマームの美德の書」編纂と イラクの十二イマーム派ウラマーの戦略的執筆活動
4	11:05-11:30	渡部 良子	13-14世紀モンゴル支配期イランの財務文書
5	11:35-12:00	杉山 雅樹	ティムール朝末期のヌールバフシーヤ： 内部史料と外部史料の比較を通じて
12:50-13:20			昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	本間 美紀	ティムール朝ヘラート派絵画における中国花鳥画の受容
7	14:00-14:25	徳永 佳晃	20世紀前半のイランにおける予算議決制度の確立
8	14:30-14:55	勝本 英明	オスマン帝国第二次立憲政期における実業教育思想：『教師Muallim』誌と 『教育雑誌Tedisat Mecmuası』の論説の分析を中心に
9	15:05-15:30	松本 奈穂子	19世紀末から20世紀初頭イスタンブルにおける音楽活動
10	15:35-16:00	秋葉 淳	オスマン帝国史におけるエゴ・ドキュメント研究の展開と展望

第6部会 212教室

	時間	発表者	発表題目
1	9:30-9:55	鈴木 英明	20世紀前半ペルシア湾岸における奴隷解放調書の資料性の検討
2	10:00-10:25	福田 安志	20世紀初めのオマーンにおけるイギリス支配の確立過程とインド
3	10:30-10:55	榮谷 温子	クルアーン112章1節の人称代名詞 <i>huwa</i> の解釈について
4	11:05-11:30	黒田 彩加	エジプトにおけるイスラーム主義思想の一展開： ターリク・ビシュリーの立論における法と共同体
5	11:35-12:00	村山 木乃実	アブー・ザッル像を通してみるアリー・シャリーアティー(1933-1977)の「アリーのシーア派主義」をめぐって
12:50-13:20			昼食休憩(ポスター・コアタイム)
6	13:30-13:55	法貴 遊	長期的に人間のふるまいを導く技術としての医学： カイロ・ゲニザの医学文書の観点から
7	14:00-14:25	矢口 直英	中世イスラーム社会の医療倫理
8	14:30-14:55	石川 喜堂	アッタル『鳥の言葉』における「血」を用いた表現方法について
9	15:05-15:30	相楽 悠太	イブン・アラビー思想における魂 (nafs) の哲学的三分： 「理知的魂」・「動物的魂」・「植物的魂」
10	15:35-16:00	澤井 真	イブン・アラビー学派初期における霊的カリフ(権威)論の展開について

ポスター発表 219教室

	発表者	発表題目
P1	柏木 裕之・ 山田 綾乃	クフ王第2の船 甲板の配置と構法
P2	永井 正勝	オープンデータと古代オリエントの文書研究： 聖刻文字版「平和条約碑文」のデータ公開の意義
P3	高橋 寿光	古代エジプト、新王国時代における土器の再利用について
P4	坂本 翼	イシス信仰の変容と展開：所謂「イシスの花」の再評価
P5	千本 真生	南ブルガリアの前期青銅器時代編年：デャドヴォ遺跡の検討を中心に
P6	中野 智章・ 小野塚拓造・河合望・吹田浩・ 田澤恵子・藤井信之・和田浩一郎	日本の古代エジプト資料に関する情報の把握と発信
P7	河合 望・ 岡田靖・栗本康司・松島朝秀	トゥトアנקアメン王墓出土の儀式用寝台および二輪馬車の調査研究

